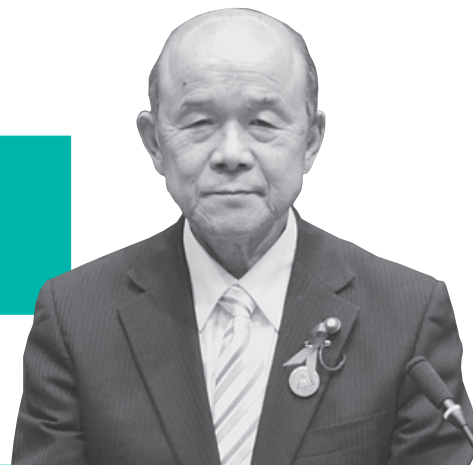




質問

「仁多米・仁多牛の日」を

町長

検討していききたい



令和6年度 第1回奥出雲町肉用子牛共進会（6月12日）



郷土が誇る農産物「仁多米」

糸原 壽之 議員

質問 仁多米・仁多牛は、町が全国に誇る高名な地域資源で、地域の経済を支え、奥出雲町の名声を全国に知らしめてきた。しかし今、仁多米づくりの農業・仁多牛の畜産は後継者難

だ。そこで、後継者育成の象徴日として「仁多米・仁多牛の日」を設け、その日には日本の各地で奥出雲イベントを開催したらと思うが、町長の所感を伺う。

町長 提案いただいた「仁多米・仁多牛の日」を設けることは大変、大事なことであると思う。記念日を定め、イベントなどと絡めて、宣伝効果を高め、また、若い人達にもそうし

た刺激を与えることで、波及効果も期待できると考える。

記念日を設けることについては、皆様からの意見も聞いて、検討していく。

質問 記念日には、東京・大阪などで日本中が奥出雲町になるようなキャンペーン

ンを張る取り組みの考えは。
町長 仁多米とか仁多牛などの奥出雲ブランドを、首都圏や近畿圏へ積極的に出かけて、ブランド力をさらに高めるイベント等へ出ていきたいと思っている。

蕎麦の増産体制の強化を

質問 今奥出雲町は、蕎麦の町として多くの観光入込客があり、大きな経済効果がある。観光客は年々増加している。

化されたい。町長の所感は。

しかし、蕎麦の生産量は横ばいで、生産者の高齢化にあわせて、蕎麦の町として地元産蕎麦の量が危ぶまれている。もっと蕎麦栽培に補助金を出して生産を強

町長 本町に蕎麦を食べに来られる方が多くいらっしゃることは、町民の皆様、まして私自身も認識している。

生産奨励の補助金を増額しなくても、町内で増産できる体制を整える。